

2025 年 1 月 31 日 社長会見要旨

【会見要旨】

「2024 年度第 3 四半期決算」、「お客さまの健康維持をサポートする新たなサービスの開始」、「泊発電所の審査状況」などについてお話しします。

【2024 年度第 3 四半期決算】

はじめに、「2024 年度第 3 四半期決算」について、お手元の資料 1 に沿ってご説明します。

2 ページの上段「経営成績」の表をご覧ください。売上高につきましては、燃料価格の低下に伴う燃料費等調整額の減少などにより、前年同期に比べ 391 億円減少の 6,464 億円となりました。経常利益につきましては、前年同期の燃料費等調整制度の大幅な期ずれ差益が解消したことなどにより、前年同期に比べ 169 億円減少の 568 億円となりました。なお、期ずれ影響のイメージにつきましては、16 ページにまとめておりますので、後ほどご覧ください。また、四半期純利益につきましては、経常利益の減少はありましたが、核燃料売却益を特別利益に計上したことなどにより、前年同期に比べ 10 億円増加の 546 億円となりました。

続いて 2 ページ下段「財政状態」の表をご覧ください。自己資本比率は前年度末に比べ、2.0 ポイント改善し、16.9%となりました。

以上、2024 年度第 3 四半期決算の概要をご説明しました。

続けて、2024 年度の連結業績予想についてご説明いたします。4 ページをご覧ください。

2024 年度通期の連結業績につきましては、至近の動向を踏まえ、10 月 31 日に公表した連結業績予想を修正いたしました。売上高につきましては、前回公表時に比べ、他社販売電力量が増加する見込みであることなどにより、10 月公表値に比べ 50 億円増加の 9,070 億円程度となる見通しです。経常利益につきましては、諸経費の次年度への支出時期ずれによる費用の減少などにより、10 月公表値に比べ 60 億円増加の 430 億円程度となる見通しです。当期純利益につきましては、経常利益の増加に加え、核燃料売却益の特別利益への計上を反映し、10 月公表値に比べ 40 億円増加の 470 億円程度となる見通しです。

4 ページの表の中ほどをご覧ください。2024 年度通期の小売・他社販売電力量につきましては、小売販売電力量は、概ね 10 月公表時の想定どおりに推移していますが、他事業者への卸販売量が増加する見込みであることから、小売・他社販売電力量の合計では、10 月公表値に比べ、5 億 kWh 増加の 337 億 kWh 程度となる見通しです。

7 ページ以降に決算ならびに業績予想に関する経常利益の前年度からの変動要因などを、参考資料としてまとめておりますので、後ほどご覧ください。

期末配当予想についてご説明いたします。6 ページをご覧ください。

2024 年度の期末配当予想につきましては、前回の公表内容から変更はなく、普通株式は 1 株当たり 10 円、B 種優先株式は定款の定めに従い実施することを予定しています。

2024 年度第 3 四半期決算のご説明は以上です。

【「ほくでんヘルスケア」サービス】

次に、お客さまの健康維持をサポートする新たなサービスの開始についてご説明します。

資料 2 の 1 ページをご覧ください。当社は、北海道に根差す企業として地域の皆さまと共に新たな価値を創り上げる「共創」の考え方に基づき、お困りごとや社会課題の解決、地域経済の好循環に繋がる様々なサービスを提供しています。北海道は、広大かつ積雪寒冷地という地域特性に加え、高齢化の進展や医療従事者を十分に確保できないことなどにより、医療機関へのアクセスが難しい地域があります。一方で、オンラインでの健康相談や診療は、コロナ禍を経て、より身近なものとなってきました。こうした背景を踏まえ、健康医療相談チャットやオンライン診療の受診ができる「ほくでんヘルスケア」のサービスを開始いたします。

3 ページをご覧ください。「ほくでんヘルスケア」では、24 時間 365 日、チャットで気軽に医師などに健康相談ができます。専任の医療チームが健康に関するさまざまなご相談をお受けします。

4 ページをご覧ください。ご都合のよい時間に、お好きな場所から、医師によるオンライン診療を受けることができます。夜間・休日はもちろん、予約なしで当日の受診も可能です。

5 ページをご覧ください。歩数計や家族アカウントとの連携機能も兼ね備えており、アプリ内のミッションを達成することで楽しみながらポイントを貯めることができます。ご利用料金、ご利用までの流れなどサービスの詳細については、お手元の資料をご確認ください。

便利なアプリとなっておりますので、多くの皆さまに、ぜひ、「ほくでんヘルスケア」をご利用いただき、健康の維持と増進に役立てていただきたいと考えております。

【泊発電所の審査状況など】

最後に、お手元に資料はございませんが、泊発電所の審査状況について申し上げます。当社は、昨年 12 月 24 日の審査会合において、泊発電所 3 号機の原子炉設置変更許可に係る審査上の論点について、一通りのご説明を終えました。現在、2025 年度の早い時期の原子炉設置変更許可取得に向けて、申請書にこれまでの審査結果を反映する補正作業を進めており、準備が整い次第、原子力規制委員会へ提出する予定です。

審査対応と並行して、安全対策工事についても早期完成に向けた取り組みを進めています。固い岩盤に直接据え付ける防潮堤の新設工事については、岩盤まで掘削する際に

周りの土砂が崩れてくるのを防ぐ「土留め工事」、岩盤までの土砂を取り除く「掘削工事」、防潮堤本体の「構築工事」という 3 つのステップで進めています。昨年 12 月には、1 つ目の土留め工事が完了し、現在は、2 つ目の掘削工事を冬期間も継続して行っているところです。

泊発電所の安全性の確保を目的に検討を進めている燃料等の搬入出を行う荷揚場につきましては、これまで、泊村内に新たな荷揚場を設置、または既存の岩内港を活用させていただくことを検討していました。現在、燃料等を安全で円滑に輸送することを考慮し、泊発電所に近い泊村内に新設すること、また、新設荷揚場と泊発電所を結ぶ道路は専用道路とすることで検討しています。荷揚場の件では道庁からも要請を受けており、原子力規制委員会をはじめ、その他の関係機関、地元の皆さまをはじめ、道民の皆さまにしっかりと説明を尽くしてまいります。また、泊発電所の必要性やその他の安全対策の状況についても、皆さまにご理解いただけるよう努めてまいります。

国においては、エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素を同時に実現していくための産業政策やそれを支えるエネルギー政策が一体となって議論されています。「第 7 次エネルギー基本計画」「GX2040 ビジョン」の案では、データセンターや半導体工場などの将来的な電力需要の増加が見込まれるなか、脱炭素化につながる再生可能エネルギーや原子力発電の重要性があらためて示されています。

当社の再生可能エネルギーの開発につきましては、昨年 11 月に檜山沖における洋上風力、12 月に上ノ国町での陸上風力の環境アセスメントにかかる配慮書手続きを開始しています。地域の皆さまを中心に、計画の内容や、環境影響評価の中で配慮していく事項について、丁寧な説明に努めてまいります。

当社は引き続き、泊発電所の早期再稼働や再生可能エネルギーの導入拡大に加え、火力の脱炭素化などに取り組むことで、2050 年の北海道におけるカーボンニュートラル実現に挑戦してまいります。

私からは以上です。